



入 学 式



新入生オリエンテーション



体育祭

- 校長挨拶
- 学科紹介
- 学生活動の紹介
- 乗船実習

- 国際交流
- 在外研究・高専間人事交流
- 新任教職員紹介
- 学校通信

校長挨拶



自身のモラル・レベルを常に意識し、 鍛え、育て、立派な人間として生きる



校長 林 祐司

このメッセージが、学生の皆さんの目に触れることを祈って執筆しています。題目から推定して、面白くないかと判断されそうですが、皆さんが生きていくうえで大切なことについて書いてあるつもりですので、是非、読んでください。

1. モラル (moral) について

モラルとは、「道徳」とか「倫理」と日本語訳されていますが、単に「規律遵守 (じゅんしゆ)」ではなく、自分と自分の生き方を密着させたところに生まれる「考え方」や「態

度」という意味です。例えば、「立派な人間」には立派なモラルが備わっていますが、「立派そう人間」にはモラルが欠如している場合があります。

モラルは、人間が生きていくうえで、常時携帯するもので、普段から良否の判断基準として用いられ、本人の態度に反映するものです。

2. 「君たちはどう生きるか」

校長室の机の上に吉野源三郎原著の「君たちは どう生きるか」(マガジンハウス出版) があります。この本は、今年度の入学式式辞で紹介した図書で、本校図書館に10冊あります。入学式の雰囲気の中で、十分に校長の意図が伝わったかどうか、図書の貸出状況も含めて気になるところです。

私がこの本に出会ったのは昨年の64歳のときでした。もっと早く出会っていたのなら、今とは異なった生き方をしていたかもしれません。それほど生き方にインパクトを与える本です。だからこそ、新入生の皆

さんが在学中に何度となく読んでくれることを願いました。たぶんこの本の表紙を開けるたびに、読後感が変わってくることでしょう。それこそが自身のモラルの向上を意味しています。心が辛い時や苦しくて折れそうなときにこそ、自身のモラルを鍛え、育てるチャンスです。しっかりとその事象に正対し、その事象を分析し、対応策を考えることです。そんな時に、相談できる友達がなければ、最高の状況ですが、家族や教師に相談することも必要と考えます。多くのプロセスを経ると思いますが、最後は自分で問題を咀嚼(そしゃく・噛み砕く)し、モラルの栄養として吸収することです。

3. 具体的な事象の改善とモラルの向上

まず、第一段階として自分の行動や態度が一般的なモラルに反していることに気付くことです。次に第二段階として、気付いた点を改善するために、努力を開始することです。しかし、改善したいが、改まらない時には、友達、家族、教師に助けを求めることが第三段階です。第四段階として自身の努力と周りの支援によつて事象の改善が達成できる。続く第五段階は、その他の改善事象に對して、第一段階から第四段階まで

のプロセスを繰り返すことにより、改善できた自信と成果を色々な状況で発揮することになります。

例えば、キャンパス内に無いとは思いますが、喫煙を例に挙げます。

第一段階…未成年者の喫煙は学則や法令や一般的モラルに反しているというところに気付くことです。もちろん喫煙習慣によつて自身と周囲の人間の呼吸器に致命的なダメージを与えることや、出火原因の第二位がタバコの火の不始末であることを理解すべきです。

第二段階…禁煙を開始する。

第三段階…どうしても自分自身だけでは喫煙習慣から脱することができない場合は、友達、家族、教師に相談し、医療機関を受診する。

第四段階…禁煙に成功すれば、コソコソと物陰に隠れることもなく、正々堂々とキャンパス内で行動でき、より充実した健康的な学生生活を送ることが出来ます。

第五段階…次に、キャンパス内に無いとは思いますが、飲酒の改善があれば、同様のプロセスを実践します。

以上、一つひとつの事象の改善や克服を通じて、皆さんのモラルを鍛え、育て、「立派な人間」として生きてほしいと強く望みます。

商船学科の紹介



商船学科長・機関コース主任

伊藤 友仁

高専は51校ありますが、そのうち商船学科が有る学校は本校を含め5校です。本校は明治14年（1881年）に設立され、現在は高専の商船学科として船舶職員の養成を行っております。商船学科の修業期間は5年半で、工業系学科より半年長くなっています。その理由は、3回の大型練習船実習が2年生の3月（1か月）、4年生の後期（5か月）および6年生の前期（6か月）と、合計12か月間行われるからです。また、商船学科は外航船の職員になることができる3級海技士の資格を取得するため、国土交通省が認定した船舶職員養成施設です。練習船「鳥羽丸（全長44m、総トン数244トン）」を管理し、学生の教育および学校のPR活動などで活用しています。

ここでは、少し商船学科の将来予想について述べたいと思います。海洋立国を目指す我国では海に係る産業の振興とそれに貢献できる人材育成が不可欠です。商船の目的は人や物資を海上輸送することで、船員はその運行要員として活躍してきました。近年、我国では海洋エネルギーや鉱物資源開発の機運が高まり、特に日本の海域で各種資源が発見され、近い将来は海洋資源立国の道が開けるのではないかと期待されています。具体的には日本近海のメタンハイドレートやレアアースなどを採取して商業生産することが最終目標となっています。これまで国の船員養成の役割を担ってきた本校のような商船学校が、近い将来何らかの形で海運を含む海洋産業に貢献す

る時代が到来することが予想されます。商船学科は船員養成機関を維持しつつ、産業のニーズに応える為の柔軟性を備える必要があります。今後、船舶の分野でもIoT、AIなどの情報技術の活用が不可欠になることでしょう。しかし、どんな海洋技術の需要があっても、学生が本校で船員としての基礎をしっかりと学んでいれば対応できるものと確信します。最後に商船学科の学生にいつもお願いすることですが、社会人として必要な教養を高めるため、低学年から基礎科目（英数国理社など）を毎日勉強する習慣を身に付けてください。同時に、課外活動で体を鍛え、元気に毎日を過ごしてください。そして将来の海洋立国で活躍できる人材に育っていただきたいと思っています。



校内練習船「鳥羽丸」

電子機械工学科の紹介



電子機械工学科長

古森 郁尊

本学科は、「目立たないけどあたりまえの日常を支えることに誇りを持てる人材」の育成を心がけ、ロボット関連など幅広い産業分野へ卒業生を送り出しています。また、ロボットコンテストへも積極的に取り組み、2年連続で全国大会出場を果たしています。他方、地域との連携、新産業・地元への人材の供給にも重点的に取り組んでいます。

地域との連携では、本学が立地する鳥羽市と共同で害獣・防災・環境・観光の観点から学生実験テーマを設定し、機械・電気・電子・制御・情報を専門とする合計10名の教員と3・4年生で合同チームを作り、地域の課題解決に取り組んでいます。

新産業あるいは地元企業への就職支援として就職や進学を控えた4・5年生に対し、特別講義として「航空機産業やロケット技術に関わる講義」を開設し、今年で3年目となります。講師は、航空宇宙産業で活躍している最前線の技術者や、プロジェクトを支えるポジションにある人、大学の先生や地元関連企業の技術者の方々で構成されます。

低学年での専門の授業では、理論値と実験値の違いについて考察を加えるトレーニングのため、講義と実験を組み合わせた授業形態を導入しています。

本学科は、社会のニーズに対応しながら、新しい試みに挑戦して行く学科です。

制御情報工学科の紹介



制御情報工学科長

出江 幸重

制御情報工学科は昭和63年に学科改組によって誕生しました。当時の航海学科と機関学科から商船学科、制御情報工学科となったわけですが当初は、情報・電気電子・機械・制御の4つを柱としてカリキュラムが考えられていましたが、現在は情報と電気電子（一部機械）を中心に学生たちは学んでいます。

制御情報工学科では、時代と共に学生たちが学ぶ内容だけでなく、教育方法やその実践についても大きく変化してきています。最も特徴的な取り組みは、「創造実験」と呼ばれるPBL型の実験です。創造実験は平成18年度の4年生から始まったと記憶しています。平成27年度からは、この「創造実験」をさらに発展させました。3、4年生の縦割りの班構成で、基本的には全員が学外や学内のコンテスト出場したり、地域に関する問題に取り組み、そのためのシステム開発や製作等を行うPBL型実験です。特に学外コンテストでは大きな成果を上げています。全国高専プログラミングコンテストでは、昨年と一昨年に最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞し、今年度はImagine Cup 2018国内大会で優秀賞を受賞し、世界大会への出場が決定しました。その他にも多くの大会で最優秀賞や入賞を果たしています。これらの成果は、学生たちの努力によるものであり、今後の活躍にも大きく期待しています。

一般教育科の紹介



一般教育科長

富澤 明

本校の一般教育において技術者としての基本的な資質と専門科目を学ぶための基礎学力を養うため、一般教育科は次の教育目標を掲げています。

- 一、健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。
- 二、専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。
- 三、多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。

本校の学生は、人文・社会系科目、自然科学系科目、保健体育、芸術及び外国語という広い分野にわたり、高等学校のレベルから大学の教養課程のレベルまで、5年間の一貫教育のもとで一般教育科目を履修します。

また、「一般基礎教育」科目においては、1年生では高専での学修活動への円滑な適応とコミュニケーション能力の向上を、2年生では現代人としての視野を広めることを目指した授業が計画されています。それらの中には、「ライフプランを考える」（日本パーソナルファイナンス協会）、「法教育出前授業（憲法について考えよう）」（三重弁護士会）、「KDDIスマホ・ケータイ安全教室」、「デートDV防止啓発講座」（鳥羽市役所）、「心のスキルアップ講座」（本校カウンセラー）、「性教育」（外部講師）、「地震発生時の想定ゲーム」など、多様な授業が含まれています。

来年度に全学年での移行が完成する教育課程ですが、全国の高専における共通の学習項目を定めたモデル・コア・カリキュラム（MCC）の完全実施とともに、本校に、より適した課程の構築を目指して、今後とも見直しが続けられます。

専攻科の紹介



専攻科長

宮崎 孝

本校専攻科は、商船学科を基礎とする海事システム学専攻と工業系学科を基礎とする生産システム工学専攻で構成されています。最近では他高専からの受験者も毎年いて、現在、富山高専と小山高専からの入学者が在籍しています。入試は、推薦と年2回ある学力選抜があります。細かいことですが、今年度より、学内からの受験者については、学校長による推薦から学科長による推薦に変更となりました。

専攻科の2年間の教育課程を修了し、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することで、商船学、機械工学、電気電子工学、情報工学の学士の学位を取得することができます。他高専からの入学者も事前確認が必要ですが、この新しい方式での学位取得が可能です。

専攻科では、専門分野におけるより高度な開発・創造能力、複合的視点から物事を考え解決する能力を持ち、国際的な感覚を持ち自律した技術者を育成しています。このための教育が適正に行われているかの審査を定期的に受けています。本年度は、学位を取得の制度が変わって初めての審査の年となっています。また、他大学と連携し、単独では難しい人材育成のための共同教育プログラムについても、現在検討しているところです。

学生の活躍

3月に演奏会を開催

電子機械工学科3年 佐野 瑛都

吹奏楽部は3月18日（日）に図書館棟1階ホールで演奏会を開催しました。その日の午前中はM・Iの卒業式で



した。

昨年度は、海学祭の演奏会が台風の影響で中止となり、5年生は引退の機会を失ってしまいました。そのため、3月に演奏会を行うことを初めて企画しました。

この日のために私達吹奏楽部員一同、卒業する5年生も含め一生懸命練習に励みました。

当日は午前中の卒業式でも演奏し、「卒業直後」の先輩ともども盛大に成果を披露することができました。

この演奏会は教職員、保護者、学生会の方々の協力と配慮があつて成功できたと思います。

ありがとうございました。
次の演奏会は、10月21日（日）海学祭にて開催します。ぜひお越しく下さい。

野球部の紹介

電子機械工学科4年 藤澤 文弥

野球部です！部員は1年生4人、2年生6人、3年生3人、4年生3人、5年生6人、マネージャー4人の計26人で活動しています。主な活動期間は火曜日から土曜日で休日は日曜日、月曜日です。

僕たちの第一の目標は、高専大会全国出場です。

この夏の大会は惜しくも負けてしま

いましたが、次の大会に向けて日々練習しています。写真は大会の様子です。

僕たち野球部は先輩後輩の上下関係は少なく、初心者にもやさしく指導してくれる先輩がいるので、中学で野球をやっていた方も、初心者の方も、野球に興味がある方など誰でも大歓迎です。

練習場所は坂の上の野球部グラウンドで平日午後3時半から、休日午前9時から練習しているので興味のある方はぜひ見に来てください！



卓球部の紹介

制御情報工学科5年 橋爪 郁也

私達卓球部は、現在部員25名で活動しています。部員の多くは中学からの経験者ですが、初心者で入った学生もいます。商船卓球部の特徴は、各学生が自分で練習内容を決めるところにあります。私達は、強制されてする練習では強くなれないと考えています。強くなるために何をすればいいのか考える際、親身に相談に乗ってください。コーチや顧問の教員方もいらつしやいます。おかげで、私達は日々成長することができています。

今年の高専大会は主催校として参加しました。結果、団体戦は5位、個人戦は二回戦進出でした。団体戦での結果を踏まえ、来年の高専大会で後輩が良い成績が残せるように願う次第です。また、卒業までに時間の限り後輩の育成に努めたいと思います。



ボーイスカウトで 最高栄誉賞受賞

電子機械工学科4年 飯田 慎也

私はボーイスカウト活動を小学校1年の時から行っています。その活動の中で今年の3月に富士スカウト章（以下、富士章）を受章しました。富士章とは高校生年代において最高位のボーイスカウトに与えられる章で、毎年各県の代表は東宮御所、首相官邸、文部科学省を表敬訪問しています。

この章を受賞するにあたって、様々な条件の中で一番メインとなるのが、自発的なプロジェクトの計画・実践・



評価・反省です。私は昨年の12月29日から1月4日まで、桑名市から京都までを自転車で行った計画を実施しました。雪の中での野営をしつつ、京都の下鴨神社で奉仕活動を行い、事前準備の重要性を実感する良い経験となりました。

将来はボーイスカウトで得た経験が生かせる仕事に就き、社会に還元することが目標です。

Imagine Cup 2018

日本予選で優秀賞受賞 と世界大会出場決定！

制御情報工学科5年 河口 祭

私たちのチームは「EFFECT」というマダイやシマアジなどの海面養殖の自動給餌を実現する人工知能を開発しました。そしてImagine Cup 2018で優秀賞をいただき、世界大会への出場が決定しました！

私たちは、これまでに実現されなかった全く新たなシステムを開発し、漁師さんが本当に実現したい給餌を実現します。これにより漁業への新規参入者を増加させ、市場価格の変動による収入が不安定である問題にも対応します。

日本大会の当日には「一番リアルティがあった」との言葉をいただきました。

した。これも地元の漁師さんと協力して開発し、漁師さんが本当に欲しいと思っているからこそ評価された点だと思います。

これからも地元の漁師さんと協力して実証実験と改良を重ねていきます。そして世界大会で優勝を目指して精一杯努力します！



平成29年度PLC制御 コンテストで優勝

生産システム工学専攻2年 矢田 偉士

平成29年12月26日、専攻科の大北太田、矢田は、オムロン・高専機構共同教育プロジェクト「平成29年度PLC制御コンテスト」に参加しました。

このコンテストは、製品の生産で使われる機器を制御するPLCを用いて、身近な課題を自動化により解決する競技です。今年は、全国の高専12組のチームが、「学校内の困りごとを自動制御で解決しよう!!」をテーマに参加しました。私たちは、学生主事が困っていた学内駐車場の不正駐車問題を解決する為に、「駐車場に設置する多機能遮断機」を製作しました。多くの要求を実現することに苦労しましたが、無事に完成出来ました。結果は、遮断機の様々な通過状況を想定したことが評価され、優勝となりました。



小水力発電 アイデアコンテスト

電子機械工学科4年 濱井浩之進

私たちは2017年3月25日に開催された第七回小水力発電アイデアコンテストに参加し、大賞、技術賞、アイデア賞、地域貢献賞を受賞しました。このコンテストは、各水路に合った水車を製作し、水車の発電効率と発電された電力をその地域に適応した利用方法を提案することを目的としています。昨年、技術賞二位を受賞したのですが、賞状を受け取る際に私は胸の奥で地団駄を踏むほど残念でした。この気持ちをお忘れず大会に挑んだところ、良い成果を上げることができ、賞状を受け取るとき不思議と目頭が熱くなりました。

この成果は私一人では到底成し遂げることが出来ないもので、良いチームをみんなで作れたからだと思えます。



NIMYRO組込み開発 コンテスト技術部賞受賞

制御情報工学科5年 濱口 遼平

私たちはナショナルインストルメンツ社主催NIMYRO組込み開発コンテスト本選へ参加すべく、東京へ行ってきました。そこでは一年間の創造実験で作ったイノシシの被害から農作物を守るシステムを発表しました。本システムは、赤外線カメラと画像処理技術を用いてフラッシュライトで夜行性のイノシシを撃退するものです。私たちの班は独創性が評価され、同社技術職員の方から「技術部賞」を授かることができました。最優秀賞をとれなかったことは残念でしたが、それでも一年間の努力が報われることができ達成感を感じました。

この経験は制御情報工学科で学んできた様々なことを発揮するいい機会になり、私はチームでシステムを作り上げることを楽しさを実感しました。この経験を今後の活動に活かしていきたいと思えます。



キャンパスベンチャー

制御情報工学科5年 村山由莉衣

私たちは、スマートフォンを利用した最新型漁業システム「You魚キヤッチャー」を開発し、キャンパスベンチャーグランプリ中部大会で特別賞・中部経済連合会長賞と、全国大会で審査委員会特別賞を頂きました。

開発したシステムは、利用者が海に設置されている漁業用カゴの権利を購入し、カゴ内部の映像をスマートフォンで確認しながら、捕獲ボタンを押すことで獲物を捕獲し、宅配便で新鮮な海の幸を手に入れることができます。

今回はビジネスプランコンテストで

あり、今まで参加してきた技術系のコンテストとは違い、起業や経営についての知識も必要となりました。学校では学ばない知識や経験を得ることが出来たので、今後の活動に活かしたいです。



マッシュアップ

電子機械工学2年 田中 潤一

私は2017年9月から12月にかけて行われたMashupAwards2017にて優秀賞をいただきました。今回は以前製作した「Water Melon Sound」という作品で参加し、このような賞をいただきました。この作品はスイカの音を機械学習を用いて成熟しているかどうかを判定するというもので、今回参加するにあたり識別精度をパラメータチューニングや学習データの正規化などを行いました。

今回参加したことにより交友関係や業界関係者とお話でき、とても有意義なものになりました。少しトラブルなども起こりましたが、ちゃんと最後には動作してくれてよかったです。今回参加したことはとても私にとってとても良い経験となりました。



商船学科乗船実習

商船学科遠洋航海実習

日本丸に乗船して

商船学科航海コース3年 大塚 智幸

1ヵ月間の乗船実習を終えて

商船学科機関コース3年 後藤 徳子

帆船・日本丸での遠洋航海

商船学科航海コース5年 清水 航

日本丸での乗船実習

商船学科機関コース5年 本間 琉久

私は1ヶ月の乗船実習で日本丸に乗船しました。

1ヶ月の乗船実習では航海・機関に関する両方の勉強や実習を行います。航海中は実際に船橋や機関室で、4時間の航海当直・機関当直に入ります。また、救命艇の降下・揚収訓練やとう漕訓練なども行います。実習は主に班で行動します。様々な実習を班の仲間と共に協力しながら取り組むので仲間との繋がりが強くなります。また、行く先々の港で上陸でき、友達と楽しいひと時を過ごせます。今回の実習では横須賀、鹿児島に行きました。

乗船実習では多くの知識や経験などを得られたり、思い出や仲間の大切さ、友達の意外な一面などを発見できたりします。最初は慣れずに辛いことが多いですが、仲間と頑張った先には良い思い出が残ります。そして、実習では同じ夢に向かって新しい仲間とたくさん出会います。そんな仲間と共に、同じ夢に向かってこれから先も実習で得たものを生かして頑張っていきたいです。



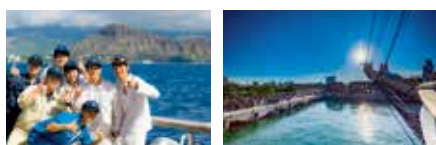
私は3月1日から3月31日までの1か月間、海技教育機構の練習船「銀河丸」で乗船実習を行ってきました。この乗船実習では普段学校の座学で学んでいることを実際に目で見て、体感し実践することができ、機会が数多くありました。各商船高専で学んでいる内容が少しずつ異なっていたため、商船間で情報交換をしながら実習に取り組むことができました。はじめは部屋のメンバーも全員富山、同じ班にも鳥羽が3人しかおらずとても不安でした。しかし共に生活をし学んでいくことによって、実習の終わりに別れがとてもつらいものとなっていました。1か月という短い期間でしたが、同じ夢に向かって歩んでいる仲間と出会い、自分の夢もまた明確になりました。クラスメートはもちろんのこと、乗船実習で出会った仲間とともに高めあいながら夢に向かって進んでいきたいと思っています。



私たちは4年生の後期に海技教育機構の練習船「日本丸」に乗船し5か月の乗船実習を行いました。日本丸には2年生時にも1か月間乗船しましたが、今回は航海コースとして乗船し航海当直や帆船ならではの帆走当直に当たりました。今回の実習から初めて夜間当直に入り、走り出せば目的地に着くまで休みなく1か月間ほど続く遠洋航海など陸上生活とは異なるものを体感できました。

遠洋航海は、船橋から船首が見えなくなるような雨の中や爆弾低気圧の暴風の中でも船外で当直にあたり作業を行う過酷なものでした。そんな過酷な航海でも笑顔でlandfall（目的地到達）することができたのは最高の仲間がいたからです。互いに助け合い、励まし、支えあうそんな最高の仲間を見つけたことができた日本丸での遠洋航海でした。

日本丸で培った技術、経験を生かせるようにこれからの人生を歩みそして航海士として活躍していきたいと思っています。



私は4年生の後期から日本丸で5か月の乗船実習を行いました。日本丸には各高専から2名の機関科の実習生が乗船し、計10名の実習生しかいませんでした。そのため多くの機関作業に参加することができ、学校で学んだ専門知識を大いに活かすことができました。

今回の乗船実習は2年生での実習とは異なり本格的な当直に入りました。機関当直は当直交代30分前から機関室および制御室の見回りをを行い前直から引継ぎます。当直中は計測、定常作業、廃油シフト、引継ぎ作成などの作業があり、あつという間に感じました。また、毎日のように計測や見回りを行っている中で、主機や補器の正常な圧力、温度などが分かるようになり異常に気づくことが出来るようになりました。

遠洋航海中は造水器で清水を作っていました。清水の使用量は制限され風呂の湯船は海水でした。楽しいことや辛いことがあった実習でしたが、とても実りのある実習でした。



国際交流

MELキャンプに参加して

制御情報工学科3年 山口 真凜

3月12日から24日までMELキャンプに参加しました。そのうち、7日間はSP（シンガポールポリテクニク）での英語研修、シンガポール観光、NYKSMのトレーニングセンターの見学などを行いました。その中でもSPでの英語研修が特に印象に残っています。授業ではシングリッシュや音節、発音などについて学びました。

先生に教えられたとおりに発音すると、明らかに今までと違うことがわかりました。実際に話をするときに、意識しながら発音することは非常に難しかったです。

練習をするため、フードコートでソフトクリームを注文しました。舌が忙しく、ゆっくりでも喋ることが難しかったです。ソフトクリームが出てきたのを見て、とても嬉しかったことを覚えています。

また、私は最後の5日間、「Ge nting Dream」に乗船しました。これは、去年できたばかりの船で、今までMELキャンプで乗って

た船の3倍も大きく、設備も非常に豪華でした。私はそこで授業を受けました。キャプ

テンや船内で働いている人の話を聞いたり、ランドリーやギャレーの見学に行きました。ギャレーとは船の台所のこと、そこではハラルの食事を作るところとそれ以外のところで分かれていて、料理に使用する道具などが混ざらないようになっていました。それは日本ではあまり見られない配慮で、多国籍な乗客を乗せている船ならではのものだと思います。

MELキャンプに参加したことで、日本と海外の文化の違いに触れることができました。今回の経験を活かして、これからも積極的に国際交流に参加していきたいと思っています。



KCC国際インターシップに参加して

商船学科航海コース4年 遠藤 正文

私は3月10日から26日にかけて、ハワイにあるカウアイ島でのKCC国際インターシップに参加しました。

本プログラムは、正しくはIkena Kahuhaと言います。これはハワイ語で「温故知新」を意味します。

その名の通り、英語だけでなく、ハワイの文化や伝統的航海術について学び、ハワイの人々の考え方や価値観（ここではハワイアンスピリットと呼びます）を知り、現代の生活に活かそうというプログラムです。座学だけでなく、カウアイ島の航海用カヌーNamaha eに乗船しての作業、小さなカヌーの建造作業、タロイモの栽培作業もしました。文化面ではフラダンスを踊る機会もあり、日本文化についてのプレゼンも行いました。プログラムの最後には、総まとめとしてキャンパス内にみんなで泊まり、一緒に作業や交流をしながら、ハワイアンスピリットについての知識を深めました。

勉強だけではありません。他の商船高専の友達と自由時間に買い物に行ったり、食事当番で料理をしたり、毎晩プールで泳いだりと、友情を深めました。2泊3日のホームステイでは、私はホストファミリーにワイメアキャンオンやポイプビーチに連れて行っても

らったり、ギターを教えてもらいました。友達を招いて開いたパーティでは私は主に子供たちと遊んでいましたが、とても楽しい思い出となりました。ホストファミリーにはお世話になりとても感謝しています。

このプログラムではただ単に英語力が伸びるだけではありません。私はハワイアンスピリットをはじめ、ここでは書ききれないほど多くの大切なことを身をもって学び、価値観が変わりました。それ程の経験ができるのがこのプログラムの特徴です。

商船学科の皆さん、そんな経験をしてみませんか。



在外研究報告

一般教育科 鈴木 聡

昨年4月～本年3月までトルコ共和国にあるイスタンブール工科大学の外国語学校に在外研究員として出向していました。

イスタンブール工科大学 (Istanbul Technical University, 以下ITU) はトルコ屈指の大学であり、アジア世界ランキングにおいても日本の東北大とほぼ同じレベルです。日本国内でもITUと学術提携を行っているのは東大、東工大をはじめとする超一流大学ばかりであり、高専では本校だけという非常に珍しいケースになります。

ITUでは大学の授業はすべて英語で実施しているため、大学入学資格後、英語の到達度試験が外国語学校で実施されます。

ある一定以上の基準に達しない場合は、合格した学部学科には進学できず、付属の外国語学校で半年～1年かけて英語の勉強だけをしてもらうこととなります。

この時、現在文部科学省が大学入学試験で検討しているヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages, CEFRと略) に基づいた授業編成が実施されています。



その中で一番下のA1レベルは週24時間、それより上のA2レベルは週20時間を徹底的に4技能にわたって勉強させられ、最終的にはCEFRのB1～B2レベル相当まで到達しなければなりません。その結果、1年以内に到達レベルに行かない場合は、翌年は外国語学校以外の教育機関に行くか、自宅で学習し、翌年に年二回実施される到達度試験に合格しなくてはなりません。それでも、合格できない場合は、残念ながら、合格した学部学科に進学することなく、退学することになります。日本では、英語ができなくても合格した学部学科に進学できないということがないので、非常に厳しいです。ですが、ITUの学生は非常に優秀なため、皆1年で合格した学部学科に進学していきます。

なお、ITUの私の所属した外国語学校では英語の習得がメインになっていますが、ロシア語や、フランス語、日本語など様々な言語も学習することができます。また、私の所属した外国語学校は、イスタンブールでもヨーロッパサイドにあるためか、街中でも英語がよく使用されていること、またトルコ語は英語とは異なり、インドヨーロッパ系言語ではなく、ウラルアルタイ系



言語であることから、英語を第二外国語として学習していること、地理的にヨーロッパに近いことから英語もイギリス英語に近いこともあり、非常にきれいでわかりやすい英語が使用されています。

書店に關しても、日本と異なり、英語の書籍が数多く発売されていること、また多読用書籍を販売している会社も多数あり、総冊数は1000冊以上あり、日本との差をあらためて感じさせられました。

また、滞在先の諸先生方の協力で、地元高校の授業も視察できましたが、授業は本校のような黒板ではなく、スマート・ボード (スマートフォンの黒板版) とホワイトボードを使用し、デジタル教科書も使用していることから、日本の教育がいかに遅れているかを痛感して帰ってきました。今回のこの経験を何らかの形で授業に生かして行きたいと思っています。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいた学校と国立高等専門学校機構にこの場を借りまして御礼申し上げます。



人事交流を終えて

一般教育科 澤田 圭樹

今年度の4月より一般教育科の理科(化学)に赴任してまいりました、澤田と申します。平成28年4月より平成30年3月まで高専間人事交流制度にて、鈴鹿高専に2年間赴任しておりました。同じ三重県内ということで、居所の変更もなく赴任できたことは幸いです。

とは幸いですが、教員室は物品も含め移動せざるをえず、原稿を書いている現在までまだ完全に復帰できずにいるところです。

鈴鹿高専では、1年目に1年生の副担任(担任補佐)を担当し、2年目には1年生の担任を担当させていただきました。担当学年・クラスはそれぞれ、非常に元気で楽しいクラスで、わずか1年ずつの担当期間でしたが貴重な体験をさせていただけたと思います。特に、高専祭や体育祭などの行事では、普段の授業で活躍できなかった学生も大活躍する様子が伺え、その応援にも力が入ったものです。またこちらの学級でも、年度末に成績や進級の可否で、てんてこ舞いしたのはよい思い出です。どこでも同じですね。

同じ「高専」とはいえ、発足して五十数年のあゆみの違いか、内部の制度が少しずつ異なっています。例えば、入学式の後に行われる「対面式」は、鳥羽商船高専では新入学生が自己紹介をしつつ在校生が歓迎の意を表す形式ですが、鈴鹿高専では新入生と在校生とが初対面をしながら今年度の学校方針が紹介される(つまりは始業式)という形式で存続しておりました。ほかに、同じ用語を使っているながら、形式としてはずいぶん違った形となっているものが多々あったのは興味深かったです。

転勤の少ない高専の業務形態の中、人事交流でこのような多様な体験をさせていただいたのは大変ありがたい、今後の教育活動に活かしてゆきたいと思っています。



新任教職員紹介

商船学科

北村 健一



本年度四月より商船学科に所属しております北村健一と申します。着任から現在(5/30)までほんの2か月ですが、振り返ると素敵な一期一会で満たされた毎日でした。カッター部員に始まる学生教職員、鳥羽丸船員・部員、事務職員、守衛食堂の調理師、清掃員寮母(ねこ、カニ、etc.)。こちらの皆様方と共に、在学生・OB生が鳥羽商船高専出身者として本校に対する誇りをより一層持てるように、未熟ながら努力致します。

商船学科

広瀬 正尚



本年度4月1日付で商船学科に助教として着任いたしました広瀬と申します。東京海洋大学海洋電子機械工学科を卒業後、同大学院に進学しました。大学時代は本校の商船学科機関コースの学生の皆さんと同じような機関系の教育を受けてまいりました。教員として皆様にお世話になりまして。商船学科をはじめ、学生の皆さんは我が国を代表する海技者として技術者になるべく日々努力していると思います。教員として私は皆さんの成長の助けになるよう頑張りますのでよろしく願います。

電子機械工学科 助教

吉岡 幸次郎



今年の4月から電子機械工学科の助教に就任しました吉岡幸次郎です。学生の皆さんには「知らない事」「分からない事」を大切にしてほしいと思っています。「無知の無知」と「無知の知」では物の見え方が大きく変わってきます。これから学生の皆さんの成長を楽しみに精一杯頑張ります。自分自身、新しい環境で「分からない事」の連続ですが、教職員の方々のお力添えで頑張れています。今後ともよろしく願います。

一般教育科 助教

深見 佳代

この度、一般教育科の助教として勤めさせていただくことになりました深見佳代です。担当科目は社会科です。

私は今年の3月に博士課程を修了、経済学の博士号を取得しました。専門は医療経済学で、社会保障費の財源調達方式の分析や医療資源の適正配分について研究しています。博士課程在籍時に1年間スウェーデンに留学しており、地域比較研究としては同国を対象としております。若輩者ですがどうぞよろしく願います。

事務部長

山内 浩一



熊本大学から赴任しました。本校は海洋交通の担い手を総合的に育成すると共に、経済のグローバル化、産業技術の高度化を見据え、商船学科と工学系学科を併せ持つ社会の要請に応えた高度な実践的技術者の育成を行っています。林校長先生ご指導の下、地域貢献や新産業で活躍できる人材育成の一助となるべく尽力して参ります。よろしく願います。

学生課長

竹中 久雄



本年4月1日付けで学生課長として着任いたしました竹中と申します。3月まで同じ県内の鈴鹿工業高等専門学校で勤務しておりましたが、その際に来校された外国人先生に三重県を代表する観光地を紹介しようと、何度か鳥羽市を訪問しておりました。個人でも一度ゆっくり家族を連れて訪問しようと思っていた矢先に今回の赴任となり、何か特別な縁を感じております。業務におきましては、学生さんにとってより楽しくなる学校を目指して、皆様と意見交換しながら対応させて頂きたいと思えます。ご指導の程よろしく願います。





平成29年度卒業証書、修了証書授与式を挙行

爽やかに晴れ渡る平成30年3月18日(日)、平成29年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに生産システム工学専攻修了証書授与式を挙行了しました。

林校長から電子機械工学科40名、制御情報工学科40名へ卒業証書を、専攻科生産システム工学科専攻7名へ修了証書が授与されました。

式の最後には校歌斉唱が行われ、卒業生・修了生を祝福しました。

卒業生・修了生は、鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。

公開講座・出前授業実施

公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

講座名称	開催日時
船員の仕事 in 鳥羽商船(鳥羽クルーズ)	7月28日(土) 9:30～15:30
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月 8日(水) 9:30～12:00
メカトロニクス応用講座1 レーザー加工機を用いてオリジナルグッズを作ろう	8月16日(木) 9:00～12:00
IchigoJamでマイコンプログラミング (U-16プログラミングコンテスト三重大会事前講習会)	8月19日(日) 10:00～15:00 8月20日(月)
おもしろ理科実験	8月20日(月) 9:00～12:30
メカトロニクス応用講座2 ロボットを制御する電気回路を作ろう	8月22日(水) 13:00～17:00
メカトロニクス応用講座4 振動型マイクロ発電機を作ってLEDを光らそう	8月23日(木) 9:00～12:00
メカトロニクス基礎講座1 電気を測ってオームの法則を確認しよう	8月23日(木) 14:00～16:00
メカトロニクス応用講座3 3Dプリンタでオリジナルグッズを作ろう	8月24日(金) 9:30～15:30
メカトロニクス基礎講座2 簡易ウェーブマシンを作って波の性質をみてみよう	8月28日(火) 9:00～12:00
メカトロニクス応用講座5 クリップモーターでEV(電気自動車)を走らせよう	8月28日(火) 14:00～17:00

スポーツ講座

講座名称	開催日
小学生のためのバレーボール教室	未定

その他の講座

講座名称	開催日
鳥羽商船高専の練習船に乗って 体験航海と造船所見学	7月26日(木)
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海 (四日市港まつり)	8月 5日(日)
みえアカデミックセミナー	8月23日(木)
海の仕事を知ろう！ 小学生乗船体験(仮称)	9月29日(土)
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動 及び一般公開	11月10日(土)
もうすぐクリスマス、遊んで学ぼう。 商船学校の歴史と船と海の話	12月 8日(土)

出前授業

体験型学習

講座名称	担当学科
機関士のしごと体験	商船学科・テクノセンター
物を冷やす仕組み	商船学科
オリジナルTシャツ・バッグ作成講座	電子機械工学科・制御情報工学科
食品の加熱って？ — 電気を利用したヒーターの製作 —	商船学科
LEGOロボットを作ろう(初級)	電子機械工学科・制御情報工学科
LEGOロボットを作ろう(機械)	電子機械工学科
LEGOロボットを作ろう(情報)	制御情報工学科
オリジナル下敷きを作ろう！	制御情報工学科
風に向かって走る車を作ろう	商船学科
合成写真を作って遊ぼう	電子機械工学科
ヒューマノイドアニメーションを作ってみよう	電子機械工学科
3 DCGを体験してみよう(初級編)	電子機械工学科
3 DCGを体験してみよう(応用編)	電子機械工学科
3 DCGアニメーションを体験してみよう	電子機械工学科
クリップモーターで車は走るか？	電子機械工学科

教養講座

講座名称	担当学科
トランシーバを使ってみよう	商船学科
商船の話(日本の貿易を支える船と船員)	商船学科



編集後記

学校だよりの第76号では、課外活動での学生の活躍、新任や戻られた教職員の挨拶などの記事を掲載しました。記事を執筆くださった皆さんに感謝いたします。

巻頭の校長挨拶で紹介の「君たちはどう生きるか」は、図書館で読書感想文のコンテストを開催とのことですので、ぜひ読んでみてください。

(宮崎記)

